

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
保育実習 I Application of Day care Children and Child Care I		1年・2年	通年	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
4単位	実験実習	選択	(保育士養成課程必修)	こどもフィールドのみ
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
保育実習指導 I、乳児保育、保育内容総論、保育原理、社会的養護				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
保育士養成課程必修科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
大塚登、高橋登美子	授業中に指示します	授業中に指示します		授業中に指示します
授業の概要				
保育所、および児童福祉施設での実習に臨み、その保育施設の機能や入所児の理解を深める。また、入所児や職員との交流を通して、保育士の職務内容、さらに職業倫理、子どもの最善の利益の具体化について学ぶ。				
授業の目標				
①保育所、児童福祉施設の機能と役割を理解することができるようにする。 ②既習の教科の内容を踏まえ、子どもの観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深めることができるようにする。 ③入所児に必要な働きかけや適切な支援を、発達や保育環境を考慮しながら学ぶことができるようにする。 ④保育計画、観察、記録、および自己評価等を具体的に理解し、保育士の業務内容や職業倫理について学ぶことができるようにする。				
授業の方法				
保育実習の必要性と保育の実践方法を考えながら、保育所にて90時間以上（45時間：1単位）、児童福祉施設にて90時間以上（45時間：1単位）の実習を行う。実習施設によっては、土曜日、日曜日、祝祭日の実習、また行事や遠足などの園外活動にも参加する。				
学習の成果（学習成果）				
保育所、児童福祉施設の機能と役割の確認に努め、保育士の職務に責任を持って取り組むことができ、入所児に適した保育環境の整備や支援を考え実践することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	【保育所における実習】—90時間：2単位—			
第2回目	保育所の生活に参加し、乳幼児への理解を深めるとともに、保育所の機能と職務について学ぶ。			
第3回目	(1) 保育所について理解する。 (2) 保育の一日の流れを理解し参加する。			
第4回目	(3) 児童の観察やかかわりを通して、乳幼児の発達を理解する。 (4) 保育計画・指導計画を理解する。			
第5回目	(5) 生活や遊びの一部分を担当し、保育技術の習得を目指す。 (6) 職員間の役割分担とチームワークについて理解する。			
第6回目	(7) 記録や保護者とのコミュニケーションを通して、家庭・地域社会を理解する。 (8) 児童の最善の利益を具体化する方法について学ぶ。			

第7回目	(9) 保育士としての職業倫理を学ぶ。 (10) 安全および疾病予防への配慮について理解する。
第8回目	【児童福祉施設における実習】—90時間：2単位—
第9回目	児童福祉施設等の生活に参加し、児童への理解を深めるとともに児童福祉施設の機能とそこでの保育士の職務を学ぶ。
第10回目	(1) 児童福祉施設について理解する。 (2) 養護の一日の流れを理解し参加する。
第11回目	(3) 児童の観察やかかわりを通して、施設における児童の欲求を理解する。 (4) 援助・支援計画を理解する。
第12回目	(5) 生活や援助などの一部分を担当し、養護技術の習得を目指す。 (6) 職員間の役割分担とチームワークについて理解する。
第13回目	(7) 記録や保護者とのコミュニケーションを通して、家庭・地域社会を理解する。 (8) 児童の最善の利益のための配慮を学ぶ。
第14回目	(9) 児童福祉施設における保育士としての職業倫理を学ぶ。 (10) 安全および疾病予防への配慮について理解する。
第15回目	学生自身が実習に向けての課題・目標を持ち、各項目の内容を実習施設の取り組みと必要性に応じて実践する。

成績評価の方法と基準

評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	100%	実習施設における評価基準により評価された5段階評価に基づく。2, 1の評価は不可に値する。(5:優れている、4:やや優れている、3:普通、2:やや努力を要する、1:努力を要する)
レポート		
調査報告書		
小テスト		
試験		
発表内容(態度含む)		
その他		

教科書と参考図書

保育実習の手引き：佐野短期大学
実習施設において必要な知識と技術のテキストについては各自用意する

履修上の留意点・ルール

保育実習指導Ⅰの授業を必ず履修し、単位修得の成績を修めていること。保育士養成課程必修の不可科目や欠時不認定科目が多数の場合は、実習担当教員と面談の上実習の可否を判断することもある。実習に臨む態度や意欲を明確に示し、実習施設に対して適切に行動することを望む。(状況に応じて、実習延期や実習中の検討も行う。)